# NPOith ezorock 活動報告トピックス



RISING SUN ROCK FESTIVAL 2018 in EZOにて、約200名のボランティアスタッ フと「ごみの分別ナビゲート」をはじめ5 つの活動を展開。「Do It Yourself(自分の 事は自分で)」の取り組みを昨年に引き続 き発信しました。「石狩さけまつり」など 札幌近郊6つのイベントで環境対策を実施 し、今年度の活動が終了しました。(もや)

### RSRオーガニックファーム



10周年を迎えた「おかえりじゃがいも」。 5月の種いも植え、地道な雑草抜きの作業 を経て、8月の初めに収穫。今年はRSRの 会場で368個のじゃがいもを配布しまし た!オーガニックファーム体験ツアーで は、石狩の畑で農作業を。実際に土に触 れ、食べ物の生産現場を知ることで、普段 の食を見直す機会になりました。(ぽん)

# <sub>都市の若者と森林をつなぐ</sub> プロジェクト「NINOMIYA」



4月~10月で計51回の薪作り活動を実施し、 のべ207名のボランティアが参加しました。 エネルギーや森林、木について考える機会 の提供ができました。また、RSRでも薪作 り体験ブースを行い、244名の方に北海道 らしい薪割りの体験と共に、森林に入るこ とで行われる森林保全について説明をする ことが出来ました。(くま)

## 石狩体験キッズ「チポロ」



はるきちオーガニックファームをフィール ドに、親子を対象にしたイベントを計10回 実施。たくさんの方にご参加いただき、リ ピーターの方も。福島の子ども達の受入で は、22名と浜益・栗山で4日間を過ごしま した。浜益の全面協力で実現したウォーク ラリーは、参画したすべての人に得るもの があったプログラムでした。(てつ)



6月から10月にかけて、のべ91人、10回の 活動を行いました。大雪自然学校の監視員 さんと協力しながら、登山道整備や利用者 へ自然保護のレクチャーなどを行い、私た ちのミッションである「利用者による国立 公園の管理」を実践しました。天候に恵ま れない日もありましたが、初めての方も楽 しめる活動になったと思います。(将軍)



329人が標津町や知床など新たな場所でも 森林保全からまちづくりまで多岐にわたる 活動を行いました。胆振地震以降は子ども 支援活動等も行っています。今まで培って きた普段の繋がりが、いざという時に力に なることを改めて感じた年になりました。 今後も各地でつながりを作りながら、活動 していきたいと思います。(たに)

# ポロクル



10月8日に札幌を自転車で走る楽しさを伝えるため、自主企画として札幌の魅力ある スポットを巡るガイドツアーを実施し、2 名の方に参加頂きました。昨年度に引き続 き「SAPPORO LOVE BICYCLE DAYS」 や、CO・OP共済主催の「自転車マナー アップDAY」など、自転車のルールマナー 啓発イベントにも参加しました。(カズキ)



今年で2年目となるSumiLab。9月6日の胆 振東部地震の際には澄川の乾燥野菜を提供 しました。避難時に不足しがちな野菜を摂取してもらえました。毎月第3木曜日に実 施している澄川わくわく広場を今年も実施 し、乾燥野菜を使用した料理を試食しても らいながら、地域の方の居場所づくりを継 続的に行っています。(寺ちゃん)

説明会の参加者の一つの傾向として、「東北出身者です」という声が聞かれる。確す」という声が聞かれる。確実災当時は、小学校高学年から中学生。被害の少なかったも「現地で出来ることはないだろうか」とボランティアでの参加を希望しても、様々なの参加を希望しても、様々ない時間を過ごしていたようだ。イラなら何かできず、もどかしているようだ。福島や岩手県の子どもたちも、あの時お世になったからと、北海道にとを運んでくれている。

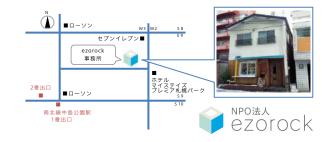
びな後っ最 る。アイス部内 へつのの のつ地大 加継の等 を続そを

NPO法人ezorock 会員向け情報誌 vol.30 2019.03

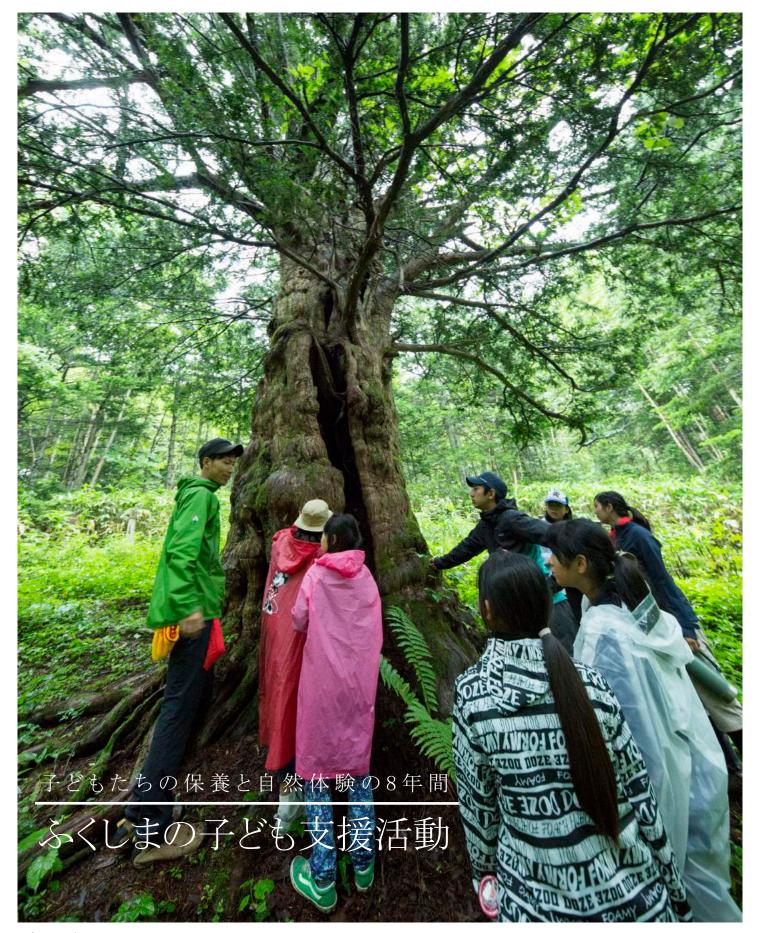
# Rock The Life!ezorock

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1番7号 TEL/FAX 011-562-0081 E-mail info@ezorock.org WEB https://www.ezorock.org/

ttps://www.facebook.com/ezorock/



# Rock The Life! ezorock vol.30



福島の子ども達・北海道へ遊びにいこう!プログラム浜益でのフィールドトリップで訪れた黄金山イチイの巨木





# Interview



#### NPO法人雨煙別学校 西脇 宏伸 さん

2012年夏~2015年春の ふくしまキッズに参加、 コアスタッフ。2015年 より栗山町地域おこし協 力隊、2018年より現職。

2011年、大学入学直前に東日本大震災が起きた。 「何か行動をしたい」とは考えていたけれど、実際に どう動いてよいかわからないまま大学2年生になって

僕の人生が変わったふくしまキッズ

いた。大学2年生の夏、ふくしまキッズのボランティ ア募集のチラシを見つけ、はじめてふくしまキッズの 活動に参加した。不安なことも多かったが、現場の担 当者が親身になって迎えてくれたことで、スムーズに 活動を始めることができた。なによりも、同じ志を 持った多くの学生ボランティアがいたことで、安心し

その後、ezorockにふくしまキッズチームが発足。 多種多様な学生や社会人が集まって計画を立て、活動 を作り込むようになった。はじめは会議の進め方さえ 知らなった私たち、多くの研修に参加したり、時間を

かけて仲間たちと意見を交わし、円滑な会議を行うこともできるようになった。 各地の自然体験活動をしている団体のキャンプに参加し、スキルアップを行う ことができた。僕の人生が変わったのはこのあたりかもしれない。

て活動できたことを覚えている。

2014年夏の活動では、ディレクター(活動現場の管理者)を経験できたことは 今の職にもつながっている。自然体験活動を指導する上で必要なスキルやボラ ンティアとは違う子ども達との関わり方を学び、なによりも子どもたちの成長 を間近で感じることができた。1ヶ月の短い間でも、別人のようにたくましく なっていることが手に取るようにわかった。

当時、ふくしまキッズとして参加者として北海道に来ていた子どもたちが今 度は、胆振東部地震で被害が大きかった3町の子どもたちを対象にしたプレー パーク活動に、お兄さん・お姉さん役として参加してくれた。私は子どもたち のディレクターとしてこの活動に参加した。子ども達とともに、私たちボラン ティアスタッフにとっても、大きな学びとなった「ふくしまキッズ」。"学びの 大地"北海道は、私たちにたくさんの気付きを与えてくれた。

ふくしまの子どもの保養と若者の成長の場

### ふくしまキッズの5年間

#### 🍾 自然の中の子どもたちの成長

2011年7月25日、ふくしまキッズのはじめてのプ ログラムを七飯町大沼で実施した。福島第一原子力 発電所事故の影響を受け、福島県在住の子どもたち や保護者の方々は様々なストレスを受けて生活をさ れていた。そのストレスを少しでも解消し、子ども たちの学びと育ちを支援する教育事業として北海道 をはじめとする全国各地(一部国外を含む)で子ども たちの自然体験活動の受け入れを行った。ezorock はふくしまキッズの北海道事務局を担い、道内各地 の受け入れ地域で不足するボランティアの募集・派 遣を実施した。

子どもたちが北海道で過ごす時間は、スタッフや ボランティアが用意するプログラムがある一方で、 子どもたち自身が自由にやりたい遊びを行う非構成 的な時間も設けた。夏は水たまりでの工事ごっこ、 冬はそり滑りなど子どもらしい創造性や主体性を発 揮するようになった。また、生活面では多くの人と 長期間一緒に過ごすため、洗濯や掃除、身の回りの 整理整頓などの自分でできることは自分で行うよう にした。ただの自然体験活動ではなく、生活面での 教育要素を持たせ、生活する上で必要なことを学び 取れるよう工夫を行った。

ふくしまキッズのプログラムを終えて、「大きく なったらふくしまキッズのボランティアをやりた い。」「勉強を頑張って、困った人がいたら助けら れる大人になりたい。」などの子どもたちの声を聞 くことができた。子どもの成長が見て取れるのがこ の活動の特徴である。

#### 🍾 ボランティアの成長の場に

子どもの成長の場になるだけではなく、ふくしま キッズに参加している若者にも影響を与えた。これ まで部活一筋で、ボランティア活動と接点がない人 やボランティアを斜に構えてみていた人も多く参加 した。どんなきっかけでも現場では全力で活動を行 い、その後はふくしまキッズのコアスタッフとして 活動する人、支援者として活動を支える側に回る人 など継続的に関わる人が多くいた。

ある教員を目指していたボランティアは、部活の 先輩にふくしまキッズの説明会に誘われてお金のか からない旅行気分で初めて参加。部活とアルバイト だけの生活に疑問を持ち、ふくしまキッズに数回単 発参加をし、その後コアスタッフに。ふくしまキッ ズで培った自然体験活動の知識や体験を基に、地域 おこし協力隊を経て、道内の自然体験活動事業を展 開しているNPOに就職した。

活動に参加する若者は自分の成長だけではなく、 子どもの可能性、自然の中での遊びの楽しさ、農山 漁村とそこに住む人の魅力、多様な人が集まるチー ムで1つのことをなす楽しさ・難しさを知る場と なった。同時に、福島の現状を子どもたちの言葉や 行動から感じ、問題意識を持つきっかけとなった。

ふくしまキッズは活動開始時に「5年間」の活動 を約束してスタートし、2015年夏のプログラムを もって終了した。2011年からの5年間、13回の長期 プログラムでezorockを通して1000名を超えるボラ ンティアが224日活動を実施した。

翌2016年度には、5年間で培った自然体験活動に 関するノウハウを活かして行くために、ezorockの フィールドの1つである石狩市をフィールドとし、

石狩体験キッズ「チポロ」(チポロはアイヌ語で鮭 のいくらを意味し、石狩市の名産の鮭、チポロでの 活動を経た子どもがまた戻って来るようにという意 を込めて)を立ち上げた。

# 🍾 ふくしまキッズの子どもたちが北海道に

2018年9月6日、最大震度7を記録した北海道胆振 東部地震が発生した。10月には、被害が大きかった 安平町、厚真町、むかわ町で行われた子どもの居場 所づくりに中学や高校生、大学生となったふくしま キッズの子どもたちが参加した。被害が大きかった 3町は、もともとふくしまキッズの受け入れ地とし て子どもたちが過ごした場所でもあった。

11月から12月までの毎週末、プレーパークのプ レーリーダーとして、福島から子どもたちがプレー パークづくりに参加した。また、当時のボランティ アはディレクターとして現場を仕切るなど、ふくし まキッズから成長した子ども、ボランティアがそれ ぞれの役割で活動を実施した。胆振東部地震という ネガティブな出来事ではあったが、当時の子どもた ちがふくしまキッズを通して受け入れ地域に恩返し ができた瞬間であった。

ezorockフィールドと地域連携

### ふくしま支援の再開

#### 🌠 生活協同組合コープさっぽろとの連携

ezorockの福島の子どもたちへの支援活動は、 2015年夏に実施した最後のふくしまキッズで最後 になる予定であった。しかし、翌2016年に生活協 同組合コープさっぽろが主催する「福島の子ども 達・北海道へ遊びにいこう!」プログラムへの連携 事業の話を頂き、福島の子どもたちへの支援活動が 復活することとなった。この事業は、石狩市を フィールドに子どもや若者への環境教育・農山漁村 体験事業を行う石狩市環境教育推進協議会との連携 事業として実施した。

#### 🍾 石狩市と栗山町のフィールド

ふくしまキッズとの大きな違いは、フィールドも プログラム内容も全て自分たちで担うこと。フィー ルドの1つめは石狩市。福島の子どもたちを受け入 れる石狩体験キッズ「チポロ」チーム以外にRSR

オーガニックファーム、プロジェクト「NINOMI YA」がフィールドにしている石狩市美登位地区のは るきちオーガニックファームや美登位創作の家で ある。美登位地区では、両プロジェクトチームと連 携してオーガニックじゃがいもの収穫を行ったり、 薪割りの体験のプログラムを実施した。

フィールドの2つめは栗山町である。ふくしま キッズの元コアスタッフが地域おこし協力隊として 栗山町に就職し、自然体験活動に関わる事業を行っ ていた。ふくしまキッズのコアスタッフとして活動 したボランティアが自然体験活動の受け入れ側に回 ることとなった。ふくしまキッズで得られた自然体 験活動のノウハウを担当者として福島の子どもたち に還元できる機会となった。

### 🌠 地域の方々との連携

コープさっぽろとの連携で行った本活動は、地域 の方々の協力で成り立ってきた。滞在拠点周辺の農 家さんや地域の方々の協力を得て、お話やプログラ ムに参加いただいてきた。その集大成として、 2018年では浜益地区をフィールドに、地区全体を 使ったウォークラリープログラムを実施した。子ど

も達は自分たちの力で地図を読み、地域の人達とコ ミュニケーションをとりながらチェックポイントを 制覇していく。漁師の方と写真を撮ったり、お寺で 地獄の絵を見たり、スナックのママと世間話をした り…。本当にたくさんの地域の方々の理解と協力で 成り立ったプログラムだった。理解と協力の背景に は、地域の懐の大きさと築き上げてきた関係性があ り、普段からつながりのある地域だからこそ、チャ レンジできたプログラムであった。このプログラム は浜益地区にとっても、自分たちの地域の資源と魅 力を再認識する機会となった。地域の方々と築いた 関係性の中でできたプログラムは、子どもと地域と ボランティアが一同に成長する機会を作り上げた。

ふくしまの子ども支援のその先に

### これからを考える

#### 🍾 子どもが受け入れられる地域とは

ふくしまキッズを前身とした石狩体験キッズ「チ ポロ」では、2016年の立ち上げ以降、石狩をフィ

ールドに札幌近郊の子ども達を中心に体験機会の提 供を目的に活動してきた。3年目となった今年度は、 札幌市の児童会館の子ども達を対象に環境教育プロ グラムの実施や、休日の親子の憩いの場づくり、幼 児向けの自然体験など、受け入れ地としての整備か らプログラムの企画・実施までを多様な主体と連携 して行っている。

ふくしまキッズやコープさっぽろとの連携事業を 経て、学び得たものは、子どもの体験活動や受け入 れのノウハウだけではない。活動を作り、受け入れ を行っていく中には、子ども達の生きる力の強さ、 その子ども達に力や学びをもらう人と地域の姿が あった。未来ある子ども達に、個人として地域とし てできることを考えること、行動することはきっと、 当人たちにとっての活力になる。また、活動を経て できるつながりや関係は、これまでの事例を見れば、 地域や参加する人達にとって大きな財産になること が分かる。

「ふくしまキッズ」から「チポロ」、そしてこれか ら。チームやフィールドは変わっても、いつでも子 ども達を受け入れられるようなつながりや地域を作 り上げていきたい。

### Volunteer voices

- ・はじめは指示を受ける立場でしたが、活動を重ね、今では自分からやるべきことを見つけて動き、仲 間にも率先して役割分担を行うことができるようになった。毎回異なるメンバーと活動することで、 チームのマネジメントについても理解が深まった。(大学生/2013夏)
- ・子どもたちが主体的に何かを行うことが大事とされていた。その中で、時には失敗する場面、ハプニ ングもあった。スタッフには、子どもたちが自らいろんな状況を打開するまで、安全はしっかりと保 ちつつ、まずは見守ることが大切だと知った。(大学生/2014夏)
- ・小学校教員を目指していて、子どもとの関わり方を学べたらと思って参加した。子どもと向き合う・ 集団を動かすと言う部分で学ぶ部分がたくさんあった。教育実習でも役に立っていると感じる場面が 多くあった。また、ボランティアに行ったからと言って、全てができるようになったわけではないが、 自分の足りない部分を知り、自分を見つめ直すことができた。(大学生/2015夏)
- ・子どもたちと一緒に浜益の色んな文化に触れたり、地域の方々と関われたことで、私たちにも多く の学びがあり、成長することができたと思う。初めてのことを体験したとき、そこから新しい発見を したときの子どもたちの驚きの反応や表情が、とても素直で印象的だった。最終日に、子どもたちか ら「また北海道に来たい」「また会いたい」という言葉を聞けたことがとても嬉しかった。 (大学生/2018)

### ふくしまキッズ参加者数

数字で振り返える

3

<

ま支援

(北海迫プログラムのみ)			
		ボランティア	子ども
2	2011夏	332人	518人
2	2011冬	37人	93人
2	2012春	30人	28人
2	2012夏	203人	394人
2	2012冬	35人	124人
2	2013春	27人	61人
2	2013夏	128人	273人
2	2013冬	32人	117人
2	2014春	22人	61人
2	2014夏	102人	247人
2	2014冬	25人	64人
2	2015春	25人	62人
2	2015夏	112人	258人
É	<b></b>	1,110人	2,300人

#### 福島の子ども達・北海道へ遊びにいこう 参加者数

子ども

